

曹弘等發起、下ニ朝鮮ニ徵兵令施行ノ前提トシテ
志願兵制度ヲ即時施行方ニ関スル請願書ヲ衆議院
ニ提出スベク八月三日在東京同胞有志懇談會ヲ開催
シ請願書ニ參會者三十九名ノ署名ヲ求メタル後決
議文ヲ作成、直ニ李元錫外七名代表トナリ衆議
院ニ出頭、朴春琴、宇屋榮夫両代議士ノ紹介ニテ
議長ニ面會之ヲ提出セルガ本請願ハ衆議院請願委
員會ニ於テ委員採擇トナレリ。

一、朝鮮人ノ出征嘆願状況

内地在住朝鮮人中ニハ兵役義務ナク第一線ニ立テ
暴戾支那ヲ膺懲出来ザルコトヲ遺憾トシ兵役義務
要望ノ聲昂マリツ、アルガ之等分子中進ンデ軍當
局又ハ警察署ニ出征方嘆願スルモノ漸次増加スルノ
状況ニテ今日マデニ判明セルモノ次ノ如シ。

(ハ) 本籍慶尚南道泗川郡昆陽面松田里ニ〇一
住片神戸市灘区都通一ノ九山下秀次方

ポイント製造見習職工

神戸商業青年學校生徒

河 義 洙

大正六年八月二十六日生

右者帝國軍人ヲ志望シ陸軍工科學校ヲ志願受験セ
ルモ体重不足不合格トナリタルコトアルガ、今回
ノ北支事變ニ痛ク刺戟サレ國艱克服ニ第一線ニ於
テ活動スベク決意シ七月三十一日竹藪灘警察署長
ニ対シ血書志願書ヲ提出シ出征方ヲ嘆願セルガ、
同署長ハ銃後ニ在リテ正業ニ勉勵スル様懇諭歸宅
セシメタリ。

(2) 本籍慶北漆谷郡漆谷面邑内洞三四九

住所九龜市場塩屋一三一 李斗水方

日稼

李永世

当二十三年

右者八月四日所轄九龜警察署ヲ訪問シ相当昂奮シ
テ左記ノ如ク北支出征ヲ願出タルモ同署ノ銃後ノ
護ヲ全フスベシトノ慰撫ニヨリ之ヲ諒トシ歸宅セ
リ

記

支那人ノ暴戾特ニ通州ニ於テ内地人及鮮人が三百

三三

名モ虐殺カシタ事ハ憤慨ニ堪ヘヌ、何故ニ三千
モノ支那兵ヲ武装解除シタカテ殺シテシマハヌカ
自分ハ今日通州事件ノ新聞ヲ讀ミ余リノ事ニ切齒
シテ引破ツテ仕舞ツタ、ドウカ自分ヲ兵隊ニシテ
支那、出征出来ル様斡旋シテ下サイ、若シ之ガ出
来ヌ時ハ一人デ支那、行キ支那人ヲ殺シテ自分モ
死ヌ云々

(3) 本籍慶南昌原郡天加面訥次里

住所神戸市葦合区日暮通二丁目四ノ六

万歳化學研究所職工

宗鳳浩

卅二十七年

右者至極眞面目ニシテ工場主ノ信用厚キモノナル
ガ、一部鮮人ニシテ不足団体ヲ組織策動シ居ルヲ
目シテ非國民的行動ナリト痛憤シ、此ノ非常時局
ニ際會シタルヲ好機トシ身ヲ以テ鮮人同胞ニ範ヲ
垂レシトテ八月一日葺合警察署ニ出頭、北支事變
ニ對スル從軍嘆願書ヲ提出取計方ヲ願出タルガ、
令署ニ於テハ鮮人ハ未ダ兵役ノ義務ナキコトヲ説
明シ願出ノ主旨ハ充分尊重シ上司ニ報告スベキ旨

三四

諭示セリ。本名、此ノ行動ハ附近居住朝鮮人ニ相
當感動ヲ與ヘ居レリ

(4) 本籍全南濟州島城山面城山浦

住所大阪市天王寺区國分町四一羅永寺方

料理人

金橋成

尙三十四年

右者新年紙ニ本島青年が續々義勇軍出願ヲ希望シ
居ルヲ見聞シ、自己モ第一線ニ出テ暴戾支那ヲ徹
底的ニ膺懲シ國家安泰東亞平和ノ確立ヲ期スベシ

ト稱シ、七月二十日從軍志願書ヲ第四師團司令部
ニ提出セリ

(カ) 本籍全南濟州島左面河源里

住所大阪市東成区中本町五五三高丙生方

職人

金漢奎

右者北支事変ニ刺戟サレ中本警察署本町巡查派出
所ニ從軍志願書ヲ提出シ從軍方ヲ切望セリ

(ク) 本籍慶北慶州郡江東面吾金里

三五

住竹大阪市東成区大今里町三六一

製本職工

孫正鎬

當二十七年

右者中本警察署西ノ口巡查派出所ニ赴キ北支從軍
請願書ヲ提出セリ。

(7) 本籍慶南昌寧郡鎮北面徳谷里

住竹山口縣都濃郡富田町字土井

人夫稼

金永泰

當二十一年

右者各地ニ於ケル國民大會其、他、暴支膺懲、國
論ニ感激シ七月三十日徳山憲兵分駐所ニ從軍嘆願
書ヲ提出セルが憲兵ノ諭示ニヨリ之ヲ諒トシテ辭
去セリ。

(8) 本籍慶南統營郡統營面朝日里

住所大阪市大正己南恩加島町ニ、三九 栢田方

仲 仕

仕 吉 煥

尚三十四年

右者今次事変ニ刺戟ヲ受ケ血判ノ從軍志願書ヲ泉

三六

尾警察署ニ提出セリ。

一、鮮支人間ノ紛争

京都府下南桑田郡亀岡町追分

肩買

趙性國

苗三十二年

今

喪相吉

苗四十九年

右兩名ハ嘗テ親戚友人ガ北支ニ於テ支那人ノ為ニ
虐殺サレタルコトアリ、更ニ今回ノ北支事変ニモ
邦人多數虐殺サレタル事實ヲ知リ極度ニ支那人ヲ

憎悪し居タル処、偶々七月三十一日亀岡町追分空
地ニ於テ休憩中ノ

福建省生レ京都府船井郡八木町

吳服雜貨行商支那人

林 振 瑞 尚四五年

ニ遭遇シタルヲ以テ、同人ニ対シテオ前ハ支那人
ノクセニ物ヲ賣リニ歩タトハ圖々シイモノガ、今
日本ト支那ハ戦争シテ居ルノニ誰ガオ前ノ品物ヲ
買フ者ガアルカ、早ク歸國シタラドウカ、若シ日
本デ商賣シタケレハ半値デ賣ツテ行ケレト罵倒シ

タルガ、支那人林ハ、私ハ南支ノ者デ今回ノ事変
トハ何等関係ナキ地方ノ者デト言殘立去リタ
ル事實アリシヲ以テ所轄署ニ於テ兩名ヲ取調メ上
最戒セリ。

外事

各國大公使館ノ活動

一、中國大使館ノ活動狀況

前報後ニ於ケル中國大使館ノ活動ハ格別ノ變化ヲ見サルモ
八月六日午後四時五十四分許世英大使ハ馬天則ニ等秘書官同
伴佛國大使館ヲ訪問同五時三十八分歸館、同モナク腦貧血ニ
テ卒倒医師ノ手当ヲ受ケ同七時十分稍回復靜養中ナリ。

ニ等秘書官孫澁ハ八月七日ヨリ九日迄毎日万平ホテル止宿
台湾人貴族院議負辜頭榮ヲ訪問會見シ特殊ノ關係ヲ結ビ、情
報ヲ蒐集シ居ルノ容疑行動アリ。其他館員モ時々相來往シ居
レルガ特異ノ行動ヲ見ズ。

在留支那人ノ引揚ニ因シテハ大使館始メ各領事館等ニ対シ
在留支那人ヨリ頻々トシテ問合せアルモ未ダ本國ヨリ正式ニ

引揚命令ナク。只八月五日、各使領館へ大使館領事館へハ居
留氏引揚ノ便法ト準備ヲ考慮シ置クベシトノ外交部密電
リタルノミノ模様ナリ。

神戸ノ總領事館ニ於テハ八月十日各華僑団体役員ヲ集メ引
揚ノ際旅費ナキ者ノ調査ヲ十二日迄ニナス様依頼シタル事實

ナリ。横濱總領事館ニ於テモ華僑ノ向合セニ對シテ總領事館
トシテハ一般華僑ニ對シ靜觀自重ヲ求ムルト共ニ依然生業ヲ

営ムコトヲ希望スルモ自ラ必要ヲ感じテ歸國或ハ引揚ヲナス
ハ自由ナリト答ヘ居レリ。(本報本報五頁目海軍武官補佐
官トナルハ陸軍武官補佐官ニ對テ訂正ス)

(二) ソ聯邦大使館ノ活動狀況

其後事変ノ進展ニ伴ヒ現在避暑地ヨリ通勤中ノ館員ハ輪番
ヲ以テ宿直シ、連日一回館内ニ首腦者會議スル外、館内要務

ヲ用僅

ニ対シテハ、鉄板張りノ機内銃丸ニ備ヘ得ルトノ評アリ
ニ修理工事ヲナス等館内ハ頓ニ緊張味ヲ加フルニ至リ。

其後、主ナル館員ノ行動ヲ見ルニ、臨時代理大使テイナマ
ンハ一日旅行先輕井澤ヨリ館員ニ名ト他ニホノル、市銀行員
妻米國人ウイルキンツニ同兼、館用自動車ニテ長野縣下松原
湖ニ清遊セル事實アリ。ウイルキンソンハ昨年十二月渡米常
ニ一定ノ住所ナリトランプ教師ト自稱各地ヲ旅行セルモノニ
シテ支那、フィリッピン等ニモ旅行シ相当客疑ノ臭アリト認
メラル、モノナリ。

六日午後零時五十五分自動車ニテ一外國人ハ外國通信員?
ト本館東京俱樂部ニ至リ、タツマ通信東京支部長ナリギト
三名ニテ会食、三時間ニ亘リ何事カ談合セル模様ナルガ、十
三元

日一ハ元外相貴族院議員幣原喜重郎^街ヲ訪問シ、一時間十分ニ
亘リ会談退出セリ。

右ハ事変ニ対スル意嚮打診ニアリタルモノ、如シ。

尚大使館ニ於テハ毎日一回デイナマン、情報部長ロードフ
武官リニリ中將、タツ又通信東京支社長ナ―ギ其他海軍武
官、秘書等參集首脳部會議ヲ開催スルヲ常トシ居レルガ、十
日ハ持一應飯宅セルリンク中將ハ更ニ夕刻出勤シ陸海軍武
官、同秘書官及ダイナマン等參集會議ヲ開催セル模様アリ。
右ハ上海ニ於ケル大山事件ヲ中心トセルモノト認めラレ。一
般一館員ハ先般發生セル幹董子島事件ヲ契機トシ、日ソノ國
交ハ愈ニ緊迫セルモノニ思料シ居ルモノ、如ク、情報部員ルノ
フ、如キ最近某邦人ニ対シ、日ソ戦争ハ急遽發生スルカ如キ

言辭ヲ洩シ、大使館員ハ龍城ノ已ハナキニ至ルベク暴漢ノ侵
入ヲ妨グル為鉄柵ヲ設ケタリヌマト放言シ居レリ。

外 謀 活 動 状 況

(一) 中國関係謀報活動

(1) 外謀客疑留學生ノ取調狀況

前報所載外謀客疑東大農科生凌化育ハ、其ノ後ノ取調ニ依リ中國勵志社ニ関係ヲ有シ、駐日中國大使館付陸軍武官補佐官巖沢元ノ指導下一秘密団体ヲ組織シ、謀報活動ノ疑愈々濃厚トナリ、連累者(四名判明セルモ三名ハ暑休取調中)東京市本郷区菊坂町七七馬田方東大生盧冠軍(当三十二年)ヲ八月七日避暑先ナル千葉縣安房郡館山北條町一於テ検挙引續キ取調中ナリ。

(2) 中國内係外謀客疑者検挙

中國関係謀報機内ノ活動ハ事変ノ進展ニ伴ヒ益々活潑ト

四〇一

ナリ、銳意内偵中ノ處、客疑濃厚ト認ムベキ者相当多数ニ
 上リタルヲ以テ、警視庁ニ於テハ本省ノ指揮ニ依リ八月七
 日午前六時ヲ期シ、諜報活動最モ明瞭ナル中國人十一名日
 本人五名ハ内台湾人一名ノヲ一有ニ檢挙シ、爾來取調並連
 累者檢挙ヲ續行中ナリ。又神奈川縣ニ於テモ同様八月八日
 中國人一名ヲ檢挙セリ。現在迄ニ於テル被檢挙者並取調状
 况概テ左ノ如シ。

警視庁	檢挙者
八月廿日	月日
中國	國籍
中野區城山町三八 山崎方	住所
明大生	職業
岡興武	氏名
二六	年令
判明事實 事変以來數回ニ亘リ、日本ハ 大量勦撃派兵セリレ又ハ、毒斯 瓦爆彈ヲ輸送セリレ等ノ 諜報又ハ造言ノ通信ヲ本國 送リタル事實アリモ。	

"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"
九一 九	杉並区阿佐ヶ谷	中野区城山町 四一城山荘	中野区十光町 一五	淀橋区戸塚一 五三三 安リ方	世田谷区宇奈根 町八三九 米田方	中野区新井町五五 オムビツクハス方
日生	中野東 方学院	研教学 館生	早大 学院生	成城学 校生		法大生
陳盛 智	林希 美	木子 均	張先 基	何章 憲	施保 光	顏艷 生
二五	二四	二一	二八	二二	二〇	二四
取調中	共産主義者ニシテ日本北支 事変内保情報蒐集ニ資料 携帶既國ヲ企テ居リタルモノ 取調中	一、〇〇因陳果夫、部下ニシテ 現鎮江要塞司令官ナル莫父 ト密ニ通信アリ 二、本名ハ中國軍人ナルニ拘ラズ 軍ナラシムルモノト居ルモノ 三、本名ハ中國軍人ナルニ拘ラズ 軍ナラシムルモノト居ルモノ	事変後外國ノ十数ヶ所へ日本 出兵及國內状況ニ付進言又ハ 諜報的通信ヲナス 引續キ取調中	大使館ヨリ月三十日、特別手当 ヲ受ケ情報係トシテ指躍シ居 ルモノ取調中	七月二十三日「日本陸軍配備表」 及「兵器變異」(本名隠匿)ヲ 友人ニ託シ版國セシム	本國宛「抗戦」準備ナル 原稿ヲ發送ス其他取調中

四〇二

"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"
"	"	日本	(台湾) 日本	"	"	"
杉並区阿佐ヶ谷 四ノ四三七	北多摩郡三鷹村下 連雀三九 藤井方	今区城山町六六	中野区川添町 三一 北沢方	四谷区右京町三八 泉方	神田区西神田二ノ 一。新東里日語 学度内	中野区城山町三九 磯部方
倶楽部 林雀	著述業	学生 光塩女	日進英 語学生	早大生 葉燕文	国大生 章蒼萍	法大生 徐天胎
万城目衣子 三六	甲中忠夫 四九	吉田義彌 一六	黄河清 二二	葉燕文 二五	章蒼萍 二六	徐天胎 三二
大使館一等秘書松馬天則ノ モシテ情報蒐集集封中助リ ナシ居ルモノ引續取調中	錢屋王道源郭南境其ノ他多 数客疑中國人ト密結アリ現 事変後大使館直系謀者錢 屋ニ換報事突アリ取調中	客疑中國人ト通信関係アリ 取調、上客疑稀薄説論 釋放	上海方面ニ對シ情報提供ノ 事實アリ、引續取調中	陳盛智関係者取調中	一、大使館ヨリ月三ノ内、特別午 当ヲ受テ密接ナル連絡アリ 任務其他取調中 二、中國大使館 職務分配軍 ヲ所持シ情報係留學生名 判明ス	駐日中國大使館付陸軍武官署 ト密結アリ引續取調中

神奈川	"	"	"	"	"
八月十日	"	"	"	八月十日	"
"	中國	"	日本	中國	"
横浜市中区 山下町八〇	中野区城山町 六九有藤方	北多ノ郡三鷹町 下連井二六二	住所 中國上海 居所 横草区馬道一五 藝妓屋春本方	本郷区駒込林 所二八	牛込区山吹町 二ノ一〇
料理 店員	法大生	著述業	貿易商	軍家	支那留 学生寄 宿舎長
黄啓垣 三〇	王家源 二九	岡部信治 二九	佐藤庄二郎 三〇	錢 厓 四一	丸山傳太郎 六七
管ヲ發行機、鐵道等ノ資 料及本邦地圖等ヲ蒐集 本國ニ送付シタルニトアリ 目下取調中	別記林希美ニ謀報ヲ提供シ タル事實アルモノ	別記田中忠夫ノ部下トシテ 活動セルモノ	一、何名欽命謀探某ヨリ月二日 内ノ手当ヲ受テ居ル謀者ニシテ 七月二十日本邦ニ派遣シ錢厓ト 連絡ヲ命セラル 二、勲員作戦等軍機事項ヲ 謀報セル事實アリ	大使許世英直系ノ有力謀者ニ シテ別記佐藤、田中外教名 ヨリ成ル謀報網ヲ有ク取調中	留學生及大使館員ト親交アリ 利用セラレタル事實アリ 事犯輕微ニ付嚴戒ノ上八月九日 釈放ス

四〇三

(二) 第三國
情報蒐集活動
本期中特記スベキ活動ナシ。

一、外國通信員ノ活動ノ狀況

(A) 南京中央通訊社特派員陳博生ノ行動

南京中央通訊社東京特派員陳博生ハ其後ニ於テモ益々活動シツ、アル模様ナルガ、最近ニ於テハ外務省情報部ニ出入シテ得タル情報ノ外、日々ノ新聞記事等ヨリ採萃シテ

一、事變追加予算四億余萬円ニ達ス

一、川越大使歸任

一、議會ニ於ケル事變關係質問應答ノ内容特ニ八月五日衆議院特別税法委員會及ビ予算總會ニ於テ北睦吉代議士ノ質問並ビニ廣田外相ノ答弁ハ甚ダ深刻重要ナリト称シ其ノ詳細

等ノ記事ヲ在南京本社ニ打電セリ。

田中

尚最近ニ於テハ特ニ注目スベキ人物トノ来往連絡関係ナキ
モノト認メラル、モ、駐日中國大使館ニハ殆んど毎日出入
シ居レリ。

(B) タツス通信東京支社長「ナーギ」ノ動靜

「ナーギ」ハ大使館内開催ノ首腦部會議ニ出席シ自己ノ蒐
集セル情報ヲ発表スル外、連日英國ニハスエデンガテレグラフ
通信員助手「エー・アール・カット」ト自動車ニ同乗シ東京俱樂部
部ニ赴キ撞球ヲナシツ、何事カ談合スルヲ常トシ居レルガ、
六日ニハ臨時代理大使「デイナマン」外一名ノ外國人ト共ニ
東京俱樂部ニ於テ會食シ、九日ニハ予テ社会運動通信ノ編輯
ヲ依頼セル「アシンドレー」フレ事平野英雄ト會見シ、翻譯ヲ受

シ。
領次デルーター通信社東京通信員、英國人「メルヴィル・コック」
ス及米國通信聯合通信員「ミルト」ト会见セル外特異ノ言動ナ

(c) 其、他通信員ノ動靜

(d) 倫敦、ミースクロニクル
倫敦、イナシマル、ニユース
通信員

猶太系独逸人

グンテル・スタイン

(38)

右者今事變發生スルヤ頻繁ニ英國大使館ニ出入シ或ハ又在
支英米公館員ニ連絡シ情報ヲ提供シオル疑アル外常ニ外務省
同盟通信社並ニ英米外國通信員等ヨリ各種ノ情報蒐集ヲナシ
事變ノ動向並真相把握ニ努メ類リニ本社ニ電信又ハ書面通信
ヲナシツ、アルヲ以テ引續キ注意中ナリ。

四〇、五

(四) シヤパンアドヴァータイザー社記者

米 國 人 ハワード・エム・ノートン (27)

右者客月三十一日ワシントン、プレス、スフィヤ社宛「日本デハ危険ナ位國民ノ感情ガ亢奮シテオリ宜伝機関ハ其ノ鎮靜ニ努メツ、アリ、北支ノ「ゲリラ」戦術ハ當分持續スルモノト思ハレルガ、蔣介石ガ之ヲ停止シ得ルカハ頗ル疑問ダ」云々ト打電セルヲ以テ引續キ注意中ナリ。

(ハ) 印度アルソールズル純特派員

印度人 エイ・ギー・ニアズ

右者七月二十九日事変ニ干シ本社宛

「英米ハ佛露ノ諒解ノ許ニ日本政府ニ仲裁ヲ申入シ拒絶サレ

夕。支那ハ九ヶ國條約ヲ持出シタガ英、米、佛、露ハ夫レニ対シ決
定的回答ヲ避ケタ。事変前迄ハ高騰物貨対策、農村問題、政
黨ト官僚ノ鬭争ガアツタガ、事変ノ發生ト共ニ解消シ、國民
ノ關心ハ全國ヲ通ジテ北支事変ニ集中統一サレ事変費モ一人
ノ反對者モナク可決サレタレ云々ト比較的親日的通信ヲ郵送
セリ。

一、在留中國人ニ對スル暴行脅迫等ノ取締

前報ニ在留中國人ニ對スル本邦人ノ暴行脅迫等ハ尠ク、支那人ノ挑發的行為ニ出デシ爲事件ノ惹起セルモノ、二件アリ茲ニ石ノ中頭着ナルモノヲ掲グベシ。

(一) 本邦人ノ支那人ニ對スル不法行為

處所	被害者	加害者	事件概要	處置
警視廳	王文發 (三五)	嚴保中	<p>八月一日午前十時頃年令三十二年生ノ男、號中ノ三文發ニ對シ、自公ハ陸軍軍醫ナリト稱シ、日本へ渡來ノ午月日ハ名年令等ヲ尋問シ便宜用紙ニ住所、姓名ヲ記載セシメタル上、漢單方面ノ支那警察署ニ理髪店ハ出テ、二十円ニ定陸軍ニ出シテ、御前ハ出シタカ、出シテカツクノ五円出セルト云々、王ハ憲兵ト聞キ恐怖シテリタル爲、五円ヲ交付ス、何レカハ立去リタルガ、其後王ニ詐欺ニ罹リタルコトヲ感ヘ知シ八月二日所轄署ヘ訴ヘ出タリ</p>	犯人捜査中
			<p>七月二十九日午後十一時頃、電話注文ニ応ジ謝ガ配達ヲ爲シタルニ電話ノ家ニテハ注文ノ事ナク、飯室セシメタルニ</p>	

四一

藤野縣	被害者	加害者	事件概要	處置
			<p>福島ハ今次事變ハ前シテ委員召集ヲ受ケ七月三十日院志康</p>	

(二) 支那人ノ挑發的言動ニヨル邦人ノ行動

及崎	謝存水 (一八)	嚴探中	<p>附近ニ停ミ居ルノ三十寸前後ノ男子三名ガ注文ヲシテ逃去付 其ノ後ニ從ヒ暗ガリニ行クマ、三名ノ内一名ガ「前ハ何 カ」ト云フヲ謝ガ持チ居ル銃ヲドンドン射撃セシメ公人ノ體面ヲ破 リ拳ヲ以テ之ヲ捕ラセリ。此等諸君ハ事ナルニ同所 ニ新聞記者アリ新聞記者ハ多ク之等ヲ追ハシ又行シ 時々配達ヲ爲サザルトアルヲ以テ予等之ヲ捕トスル所違入 ノ所爲ナラト被害者側ヨリ申立居リ</p>	犯人捜査中
愛媛	八幡市向庭 及川行商 章同利 (三一)	藤野縣中支那病院前 嚴探中 谷水悦太郎	<p>七月二十二日午前十時頃浮浪者一隊ハ八幡市向庭ニ於テ邦人 松漢ニ名「章方」ニ到リ「章同利」ハ居ルハ大膽ニ入リ「松漢」 「ハナイカ」ト怒聲ヲシテ、侵入シ、翌朝新聞記者ガ訪シタル 「章同利」ガ行方不在ノ爲目付ヲ遺シテ引去タル事實 アリ、更ニ上記松漢ハ七月二十日午前九時許「章方」ガ 訪レタルガ同居者谷登章ノ妻ガ不在ナル事ガ、目付 ヲ向キタルニ「オ前等ハ判ラント告ケ」云々リタル事實アリ</p>	<p>谷水ニ對シテハ所轄 官廳ニ於テ嚴密ニ 調査中 前記三名ハ捜査中</p>

佐 賀	茶 良
遊 振 鉦	金 邦 本 (八九)
北 川 一 次 外 二 名	福 島 富 造 (二二)
<p>七月三十日出征兵士見送ノ暇途、北川一外二名ハ会談シ 北支事交談ニ熱中氣勢ヲ揚ゲ居リタル處ニ遊ガ来合セ 今因ノ事變ハ日本ガ侵略的行動ニ出タコトニ端ヲ察シタモ ノデ日本ガ悪イレト彼等ノ談話ヲ詰リタル爲、北川等ハ 腕カニ訴ヘマシキ権ヲ示シタルヲ以テ遊ハ直ニ逃ゲ出シタルガ 其ノ際「先ハ血祭ニ此ノ地方ニ居住シ居ル支那人カラ殺シテ 終ヘト」然語シタルヲ聞キ、畏怖ノ念ヲ抱キ直ニ北方村所在 國民黨佐賀分部事務所ニ謝考治ヲ訪レ報告シタル 模様ナリ</p>	<p>方ハ散髪ニ赴キ應召ヲナシタルニ院ハ予テ既懇ニ向柄トテ 金五十元ヲ餞別トシテ差出タリ。然ルニ同店職人ナル金邦本 (稍々低能)ハ今次ノ事變ハ日本側ニ非カアリ、支那ノ如キ 大國ハ日本ノ如キ小國ニ負ケナイト述ベタル爲 福島ト論 トナリ正ニ格闘ニ至ラントシタルモ院ノ謝罪ヨリ其場ハ鎮 靜セリ。 其ノ後福島ヨリ之ヲ聞知セル附近町民ハ全札向ノタメ多敷 押シ寄セントシタルヲ以テ所轄署ニ於テハ直ニ之ヲ鎮撫スルト 共ニ双方自重ヲ訓戒シ、金ニ対シテハ可然保護中</p>
	所轄署ニ於テ吾履

(三)

其ノ他邦人ノ暴行ヲナシタル事例ハ子供ノ喧嘩ヨリ双方

四二

ノ親が争へルモノ及泥甌ノ上暴行セルモノ長野縣ニ各々一件
吳服賣掛代残金ヨリ口論暴行セルモノ石川縣ニ一件、投石シ
硝子戸ヲ破壊セルモノ宮崎縣ニ一件アリタリ。

一、一、一 一般在留中國人ノ動靜

一、一般在留支那人ハ北支事變漸次擴大ノ徵アルマ益々憂慮シ、前項大使館ノ活動状況中ニモ述ベタル如ク、大使館或ハ領事館ニ本國ノ情勢、引揚ノ要否等ニ付頻々トシテ問合せヲ爲シ居ル狀況ナルガ、殊ニ八月五日附大阪毎日新聞掲載「日本在留支那人總引揚手順、許大使ニ訓電發セラル」ナル記事ハ相當大ナル刺激ヲ與ヘ帰國者ノ激増ヲ見タルトコロ、更ニ八月十一日正午、「ラヂオニュース」及同日夕刊東京各紙ハ日本在留ノ全支那人ニ引揚ゲ命令アリタル旨ヲ報道シタルヲ以テ本國情勢ノ逼迫ト共ニ一層帰國者生ズル見込ナリ。事變發生以來八月九日迄ノ支那人帰國者ハ別表ノ如ク五千七百余名ニシテ、在留支那人ノ約五分ノ一ニ達シタリ。

之等歸國支那人、多クハ學生、行商人、婦女子等ナルガ、
在留者中ニハ最悪ノ場合ニ至ルモ尚残留ヲ希望シ居ル者相當
アル見込ナリ。

次ニ在留中國人ノ國防献金、或ハ皇軍慰問金據出状況ヲ見
ルニ、事變勃發以來今日迄ニ三十三件、四百六十六圓四十九
錢ニ達シ尚増加ノ模様アリ。其ノ動機ヲ見ルニ在支邦人が支
那人ヨリ蒙ル迫害ニ比シ我官憲ノ保護ニ依リ何等ノ不安モナ
ク生活シ得ルヲ心ヨリ感謝セルモノアリ、本邦人ノ同情ヲ惹
キ身ノ安全ヲ固ル手段トナスニ非ズヤト認めラル、モノアリ、
又献金ノ事實ガ支那人間ニ問題トナリタル事例等ヲモ見受ケ
タリ。

宮城	長野	岐阜	滋賀	山梨	静岡	愛知	三重	奈良	栃木	茨城	千葉	群馬	埼玉	新島	長崎	兵庫	神奈川	大阪	京都	東京	北海道
115	11	1	5	7	16	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
186	37	89	148	146	247	155	59	33	34	73	38	56	37	25	70	77	70	70	70	70	70
196	37	89	149	146	255	59	33	34	73	38	56	37	25	70	77	70	70	70	70	70	70
70	8	9	26	5	7	5	7	5	7	5	7	5	7	5	7	5	7	5	7	5	7
24	88	1	73	1	2	3	1	1	2	3	1	1	2	3	1	1	2	3	1	1	2
72	84	88	102	133	151	52	30	36	51	67	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
81	31	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
183	36	79	208	163	254	58	39	45	75	38	62	37	37	37	37	37	37	37	37	37	37
267	37	90	206	167	258	60	41	47	77	39	64	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38

中華民國人內地居住者並事變後歸國者數調查表
 九日現在居住者數
 事變後歸國者數
 八月九日現在

合計	沖繩	鹿島	宮崎	熊本	佐賀	大分	福岡	高知	愛媛	香川	徳島	和歌山	山口	廣島	岡山	鳥取	島根	富山	石川	福井	秋田	山形	青森	岩手	福島	
八二六							六二					一二														
二三四	三六	二八一	一七二	二九二	一六七	三一七	七二六	九五	六五	七五	六一	二八	三一	一八	二五	八五	六一	一四	六〇	六一	一三	三六	三七	三三	一三	
二四五	三六	二八一	一七二	二九二	一六七	三一七	七二六	九五	六五	七五	六一	二八	三一	一八	二五	八五	六一	一四	六〇	六一	一三	三六	三七	三三	一三	
二四二																										
二五一	三六	二八一	一七二	二九二	一六七	三一七	七二六	九五	六五	七五	六一	二八	三一	一八	二五	八五	六一	一四	六〇	六一	一三	三六	三七	三三	一三	
四二八							六八							一四												
二八五																										
一四二							六〇	八二	一一	三〇	四二	二六							四六							
一四六																										
五七一							一一	八二	一一	三〇	一八	二六							四六							
五七一							一一	八二	一一	三〇	一八	二六							四六							
五一〇							一三〇							一六												
一〇一																										
二四八	三六	二八一	一七二	二九二	一七三	三一八	七八六	九五	七三	七七	六二	三〇	四七	一八	二七	八七	七一	一四	六四	六一	一四	三二	三七	三三	一三	
八六一	三六	二八一	一七二	二九二	一七三	三一八	七八六	九五	七三	七七	六二	三〇	四七	一八	二七	八七	七一	一四	六四	六一	一四	三二	三七	三三	一三	
二九六																										
九六二	三六	二八一	一七二	二九二	一七三	三一八	九一六	九五	七三	七七	六二	三〇	四八	二〇	二七	八八	七一	一四	六四	六一	一四	三二	三七	三三	一三	

一、外國公館ニ對スル本邦人ノ言動

(a)

七月二十九日東京市在住ノ田中和三郎外三名ハ、今回ノ事變ニ際シ駐米獨逸大使が米國「ハル」國務長官ニ對シ列國ノ嚴正中立ヲ懇懇シ、又獨逸政府が蘇聯邦ノ對事變態度ニヨリテハ獨逸トシテ再認識ヲ要スト声明セル親日的態度ヲ新聞ニヨリ知り、感激ノ余リ之が感謝ノ意ヲ表スル爲ト称シ獨逸大使館ヲ訪問、銘酒「忠勇」四斗樽一本ニ感謝状ヲ添ヘ贈呈セルニ、今大使館ニ於テハ大使不在ノ爲之が正式受納ノ諾否ヲ保留セルモ一應食品ノ收受取リヲスルコトナリ一行ハ其ノ俦辭去セリ。

(b)

八月六日大阪清交社小島主事他一名ハ神戸駐在伊太利領事館ヲ訪問、過般天津ニ於ケル日本軍ノ白河架橋工事ニ際

四四

シ伊軍ノ好意ハ衷心感謝ニ堪エズトナシ、謝意ヲ表シ辞去
セルガ、尚同社ニ於テハ東京伊太利大使館宛同様感謝状ヲ
送附シタリ。

一、北支事変ニ関聯セル内外商社ノ動靜

(a) 大阪商船会社ニ於テハ時局ニ鑑ミ八月一日ヨリ日滿連絡船並ニ青島航路船ノ廣島寄航船及廣島別府航路船ニ對シ廣島上陸又ハ通過ノ外國人船客ノ引受ケヲ見合スコトニ決定天天々干係各支店、船客取扱店ニ通知セリ。

(b) 日本ゼネラルモーターズ株式會社ニ於テハ商工省ノ命令ト稱シ目下從來ノ八時間労働制ヲ十時間制ニ強化シ貨物自動車ノ製造ヲ急ギツ、アル外、四師団カラ徵発自動車ノ修理ヲ命ゼラレ八月一日ヨリ作業中ナルガ、尚全社ニ於テハ此ノ機會ヲ利用シ事変ニヨリテ徵発セラレタル自動車數ノ調査報告方ヲ全國各代理店ニ指令セルニヨリ動靜注意中

(c) 日本フォード會社ニ於テハ今回自社製自動車ノ徵発ニ伴ヒ品

四五

不足ニヨル價格ノ引上ヲナサザル様各代理店宛懇願セリ。
d) ライジングサン石油會社ニ於テハ代理店ニ對シ事變ノ發生
ト共ニ陸軍省ヨリ揮発油、オイル等ノ大量供給ヲ受ケ、全
部其ノ要求ヲ容レタルガ、尚一般需要者ニ對シテモ支障ナ
キモ此際取引先ニ非ザルモノ、思惑買ヲ注意警戒セシメツ
、マリ。又全社ニ於テハ社員、雇傭人ノ應召者ニ對スル処
遇対策準備上必要ト称シ、各地支店油槽所ニ命ジテ兵種別
ニ依ル兵役干係者ノ調査ヲナサシメツ、アルハ時局ヲ利用
シテノ軍事調査ノ一端トモ認メラル、ヲ以テ注意中ナリ。
e) 在上海米國系バツター・フィールド汽船會社支配人英國人「エ」
・「エ」・「エ」ハ日光ニ避暑旅行中ノ処、七月廿九日有書社ヨ
リ急電ニ接シ廿一日飯菴ノ途中横濱令社支店ニ立寄り全文

店長ニ対シ要件ハ「英國政府が急遽英國海軍精銳ヲ北支威海
衛ニ集中スル爲、御用船打合せナリト漏シタリト云フ。

一、外國公館ノ應召雇傭邦人ニ対スル処遇

(a) 駐神戸英國領事「オーブンス」ハ使用邦人若生道造ノ召集ニ際シテ個人的餞別トシテ金三十五円ヲ贈リ、且應召解除后ノ復職ヲ口約シ更ニ公式取扱方ニ干シテハ大使館ニ照会中ナル趣ナリ。

(b) 英國大使館ニ於テハ大使館門衛小池義雄ノ應召サル、ヤ僅ニ令館記録係「デーボ」ヨリ餞別五円ヲ與ヘラレタルノミニテ、今田通訳ノ爲解除后ノ復職ヲ拒絶セラレ、直ニ後任者ヲ雇傭セラレタル爲令館夜警西村武雄並ニ麹町区在郷軍人分會長等ニ應召解除后ノ復職ヲ斡旋方ヲ依頼中ナリト。

尚他ノ大公使館ニ於テハ雇傭邦人ノ應召者ニ対シテハ三ヶ

四七

月分ノ本俸ヲ支給シ、三ヶ月以後ハ家族ト相談ヲナシ善処スルコト、ナシオレル趣ナリ。

(c) ソ聯邦大使館ニ等書記官「シュルバ」ノ自動車運轉士伊藤正義ハ今回充員召集ヲ受ケタルガ、曩ニ通商代表部自動車運轉士川村茂ガ召集ニ際シ、代表部ニ於テ八月給百三十円ノ内八十円ヲ應召支給スルコトヲ約シタルヲ以テ、伊藤ノ場合モ同様ノ支給ヲナスモノト使用邦人間ニ覬測セラレツ、アリタル処、其後此支事変ヲ続ル日ソ干係ノ追迫セル状勢ヨリシテカ、代表部ハ突如前言ヲ取消シ、百五十円ノ退職手當ヲ給シ解雇スル旨申渡シタル由ニテ伊藤モ同様解雇ヲ見タル模様ナルガ、情報部通訳田村清吉及代表部通訳笹川正孝ノ兩名ハソ聯側ノ不當ナル処遇振ニ対シ抗議ヲナス

ベク畫策中ナリ。

一、外國商館ノ應召者雇傭邦人ニ対スル処遇

系統	商社名	処遇方法	應召者数
英國系	ライヂンガサン石油株式会社	一、應召中月給ノ全額支給ス 一、扶養家族ヲ有スルモノニ対シテハ月給ノ全額ヲ支給ス	ナシ
米國系	日本セネラルエレクトリック株式会社	一、應召期間中ハ休職トスル 一、應召解除ト共ニ復職セシム 一、餞別トシテ会社ヨリ五十円、職員一同ヨリ百六十円ヲ贈ル	職工一名
獨乙系	神戶獨逸染料合名会社	一、暫定的処遇方法トシテ月俸ノ全額ヲ支給ス 一、餞別ハ事務員ハ三〇円乃至五〇円 仲工労働者一〇円乃至二〇円	一名
英國系	神戶エーカメロン商会	一、月俸ノ全額ヲ支給ス	運転者一名

四九

尚神戸在住ノ印度人貿易商「エス・ニンガンマル」ハ使用
邦人白井敬次郎ノ應召出奔ニ際シ率先シテ諸費用ヲ負擔シ、
戦勝祈願・送別會等ヲ開催シ、其ノ行ヲ壯ニシ大イニ親目的
態度ヲ表示セリ。

宗教

一、各種團體ノ一般活動状況

公認各宗、教派團體ニ在リテハ前誌所報ノ各本山本部ノ活動方針ガ、漸ク地方ノ寺院教會等ニ反映シテ之ガ実行ニ移升シ、各地ニ於テ祈願祭ノ執行、時局講演會ノ開催、又ハ献金、慰問袋ノ募集、應召者家族ノ慰問等ノ具體的活動ヲ開始スルニ至レルカ、其ノ概況ハ依然トシテ佛教各宗ニ於テ最モ熱心活動ナルモノアリ、神道各派ニ於テハ天理教、金齋教等

五〇

ノ外一ニ教派ヲ除キ格別ノ活動ヲ見ズ、更ニ基督教
各派ニ於テハ概ニ消極的ニシテ見ルベキ活動ナク、
僅カニきよめ會カ一部地方ニ繼續ナル献金募集ヲ試
ミシ、アルニ留マレリ。而モ一部偏僻ナルカトリック
ク教信者ニ在リテハ勤モスレバ平和ヲ強調シテ反戰
的言動ヲスラ漏スモノアル實情ニシテ其ノ動向ハ相
當注目ヲ要スベキモノアリト認メラル。

而シテ各地神祇會ニアリテハ引續キ各神社ニ於テ
祈禱祭ヲ執行シ、又ハ神符ノ寄贈或ハ慰問金ノ醸出
等、國民的熱誠ヲ示セルカ、類似宗教各團體ニ於テ

ハ依然トシテ傍觀的態度ヲ示シ、事變ニ関スル何等ノ意嚮スラ表明セザル狀況ナリ。

一 神佛基各派ノ活動狀況

(1) 佛教各派

佛教聯合會	支部ニ門司一慰問隊ヲ組織シ出征兵士家族慰問
	福岡縣粕屋一托鉢ニヨル慰問
	金募集計劃

五一

佛敎聯合會

石川縣佛敎各派

戸畑一托鉢ニヨル慰問金募集。
 八幡一百圓献金。
 直方一支那膺懲ノ宣言書提出。
 福岡縣田川郡一戦死死者追悼會、軍華講演會開催。
 福岡一總會開催、時司對應ノ宣言決議發表。

各派有志僧侶ニヨリ、十八日會ヲ組織シ、數没者ノ法要執行。

足利佛教 和合會	武運長久祈願祭。
奉詠讚佛歌 八幡聯合支部	詠讚行脚ノ布施ヲ以テ献金。
佛教清生軍 八幡總本部	街頭募集ニヨリ救恤献金。
京都佛教 獲國團	武運長久ノ祈願祭執行、慰問金醸出、 講演會開催。
本派(西)本 願寺	本山ニ皇軍ノ慰問、出征家族ノ慰問、 要救護家族ノ慰問、 慰問金品ノ募集、銃後ノ後援

五二

本派(西)本
願寺

布教、民心ノ統一振興ニ付指
令、

支部ニ佐賀縣一從軍布教師トシテ佐
職三名ヲ派遣、

康見島別院一時司講演會開催
恤兵金募集、

福岡教務所一献金方協議、臨
時慰問部規定ヲ設ケ実行活
動ニ入ラントス、

大谷次(東)
本願寺

本山ニ臨時獎義事務局ニヨリ各末寺
ト連絡橋軍方法ヲ講ジツアリ。
支部ニ岐阜別院一臨時會議開催慰問
袋、慰問金募集、國防思想
普及ニ付協議決定ス。
久留米教務所一福岡、佐賀兩縣
下末寺四百ニ本山ノ指令傳
達、軍人ヲ招聘シ寺院子弟
夏季講習會開催、出征家族
ノ幼稚園授業料免除、園寺

三三

大谷派(東) 本願寺	日蓮宗	
ニヨリ傷病兵慰問 廉見島別院一献金、慰問袋募 集計團。	支部ニ佐賀大詔実践團一國論統一 スロ一ガノ掲揚 福岡市日蓮銅像護持會一武運 長久祈願祭執行。	本山ニ西山深草派一御守二千個贈呈 婦人會員ニヨル慰問袋募集

天台宗

浄土宗

總本山智恩院一米寺三千八百
 二佛教報國ニ付指令、婦人
 會華頂女學校生徒ヲシテ慰
 問袋ヲ作成セシメ收納品募
 集中
 支部ニ秋田縣一北秋田郡各寺院ヨリ
 二十名ノ僧侶ヲ出シ托鉢献
 金ヲ為サントス

本山ニ聖護院一皇軍慰問方諭達、因
 成宣揚祈願祭執行ノ予定

五四

<p>本門法華</p>	<p>日蓮宗不 受不施狀</p>	<p>臨濟宗 黃檗宗</p>
<p>本部ニ國威宣揚祈願、國防献金準備、 出征兵士困窮家族ノ施米ヲ指</p>	<p>本山ニ政府指示ノ要旨ヲ傳達準備中。</p>	<p>本山ニ聯合會議開催、慰問托鉢施行 從軍布教師派遣、 臨濟宗聯合各派布教團本部ハ 全國布教師セ。名ニ對シ講 演、説教、座談會ヲ通ジテ國 論統一ヲ期スル様筋達ス。</p>

宗佛立講
教會

支部11小倉支部1所屬九州1円並岡
山縣ノ各團、組、會宛本部
ノ指令ヲ傳達。

(2) 神道各派

兵庫縣神道
各派聯合會

皇軍慰問金品ノ募集計劃ヲ協議決定
シ各派教會所ニ之ガ実行方ヲ示達ス。

天理教

本部11全國各支所幹部等約一千名ヲ
招致シテ時局對策協議會及時局
講演會ヲ開催シ具體的活動方ヲ

五五

天
理
教

指示態通セリ。

天理青年會本部ニテ八軍用飛行
機献納資金募集方ヲ各地支部ニ
示達ス。

支部ニ神奈川縣北部支會一時局講演
會ヲ開催シ國防献金一九八圓余
ヲ献納ス。

埼玉教務支所一武運長久祈願
祭執行並時局講演會ヲ開催シ併
セテ献金募集應召者見送戰没軍

人ノ吊問、應召者家族ノ慰問方
等ヲ指令ス。

栃木縣教務處所一献金袋ヲ各堂
齋所ニ配布ス。

宮城分教會一時局講演會ノ開催
献金募集其他應召軍人ノ慰問等
ニ関スル指令ヲ發ス。

静岡市一心會支會一祈願祭執行
並時局講演會ヲ開催ニ献金三〇
五圓余、慰問袋二、五一二個ヲ献

天
理
教

終
不

富山教務所一献金募集ニ着手

誠心會小倉支部一慰問金募集方

ヲ祈届三十教會ニ示達ス

誠心會久留米支部一祈願祭執行

並時司講演會ノ開催

康見島教務支所一献金慰問袋ノ

募集並時司講演會開催

本部ニ「教報」ヲ以テ國處宣揚祈願祭
ノ執行方ヲ示達ス

金光教

支部ニ兵庫支部一献金袋ニ百枚ヲ各
信徒ニ配布ス。

福島、香川、福岡、鹿児島等ヲ始メ各
府縣下支部ニ於テ本部發行ノ「御
慰問」ト題スル小冊子ヲ應召者
家族ニ頒布ス。

青年會東條地方実習會一祈禱祭
ノ執行、慰問金募集、應召家族
慰問方ヲ協議決定ス。

福岡地方聯合會一教師餽金及一

金光教

般募集ニ依ル、五四三圓ヲ献金
ス。
博多北教會所婦人會一献金一七
五圓余ヲ街頭募集ス。
門司教會所青年會、婦人會一信
徒醸出、五六一圓余ヲ献金ス。
久留米教會一国防献金、為「ハン
カチー」ヲ販売ス。
漆田教會一祈禱祭執行及應召家
族慰問金品募集。

神
理
教

白水河小教會—信徒釀出二十圓
ヲ献金ス。
西康兒島教會—祈願祭執行、慰
問金募集。
本部—國威發揚、武運長久祈願祭ヲ
執行ス。
支部—福岡分院、福岡教友會—祈願祭
ヲ執行シ、皇軍慰問金六〇〇圓
ヲ献金ス、又應召家族、慰問ヲ
計劃ス。

(3) 基督教各派

<p>黒住教</p>	<p>本部ニ文部次官名ノ通牒ヲ傳達シ併 セテ慰問金募集ヲ示達ス。</p>
<p>大社教</p>	<p>支部ニ出雲教福岡分院婦人會一慰問 金三五圓ヲ献金ス。</p>
<p>カトリック教</p>	<p>本部ニ日本カトリック新聞号外ヲ敬 行ニ政府ノ声明ヲ傳達ス。</p>

<p>ト教會 仙台キリス</p>	<p>日本メソヂ スト教會</p>	<p>救世軍</p>
<p>却中 益金ヲ國防献金、慰問金トスル為売 義勇奉公ト記セルマ一クヲ販売ニ利</p>	<p>問品用ノ袋ヲ調整中 問金ノ募集方指令、聯盟ニテ慰 ヲ登載シテ頒布、尚慰問品、慰 本部ニメソヂスト時報ニ政府ノ趣旨</p>	<p>本部ニ當局ノ意圖ヲ体シ軍人、民衆 ヲ指導スル様各小隊ニ宛テ指令 ス。</p>

きよめ教會

本部＝鶴軍方指令

支部＝福岡祈の家―慰問袋募集中。

一、勤員状況調査

(1) 日本救世軍本營ニ於テハ本月四日付ヲ以テ全國各地救世軍各部隊宛「應召者ノ住所氏名ヲ調査報告スベキ旨」ヲ指令セリ。其ノ意圖ハ「平民ノ福音」(明治三十二年十月山室軍平著)ナル小冊子ヲ應召者家族慰問ノ為頒布スルニ必要ナリト謂フニアリタルモ、其ノ結果ハ勤員ノ範圍等軍ノ機密ニ觸ル、虞アリタルヲ以テ、警視所當局ヨリ懇諭シテ右指令ノ自發的撤回ヲ為サシ

メタリ

(2)

福島市所在金光教福島教會所ニ於テハ全教本部
發行ノ「御慰問」ト題スル小冊子ヲ應召家族ニ
頒布シ且ツ出征軍人ノ武運長久祈願ノ為必要ナ
リトシテ應召者ノ氏名等ヲ調査セントシタルヲ
以テ所轄署ニ於テ懇諭中止セシメタリ。

(3)

島根縣仁多郡横田村所在金光教横田教會ニ於テ
モ前記小冊子頒布ノ為必要アリトシテ村役場及
所轄警察署ヲ訪問シ出征軍人ノ町村別員数ノ調
査田示方ヲ求メタルヲ以テ之ヲ阻止セリ。

意嚮

A. 支持的

(一) 某右翼團體幹部

我々ハ平素我國ハ大陸政策ヨリモ國內改造ヲ先
決問題トシテ来タノデマルガ、北支ガ今日ノ様ナ
状態ニナツタ以上、之ニ反對シ或ハ成行ニ委セテ
置タト言フ訣ニハユカホイ。須ク政府ヲ支持鞭撻
シ其方向ヲ誤マラシメナイ様ニセネバナラヌト考
六。

ヘテ居ル。
現在北支ノ状況ヲ見テ居ルト我國ハ暴支膺懲ナ
ル「スロークアン」ノ下ニ飽迄支那ヲ相手トシテ戦
争ヲシテ居ル様ニ見ラル、ノミナラズ多分ニ帝國
主義乃至ハ侵略主義的ナ進方ニ見ラレル虞ガアル。
之ハ指導精神が確立シテ居ナイ爲デアツテ國際上
不利ニ陥ル虞ガ多ク非常ニ憂慮サレテ居ル次第デ
アル。モトヨリ北支事変ハ支那ヲ相手トスルコト
ハ間違テ飽迄支那軍閥ノ膺懲並共匪ノ討伐ニ終始
シ、我皇道ヲ宣布シ東亞永遠ノ平和ヲ「スローク」ガ

ンレトシテ戦ハナケレバナラナイ。換言スレバ支
那軍閥並共匪ニ苦シメラレテ居ル民衆ヲ救ヒ其ノ
压制カラ脱却セシメテ北支ニ皇道自治体政權ヲ樹
立セシメナケレバナラナイ。

而シ自治政權樹立ノ曉ニハ滿洲、北支其ノ他ノ
自治政權ヲ合セテ「皇道自治聯邦」ヲ樹立シ、日
本が其ノ盟主トナツテ東洋永遠ノ平和ヲ計ルコト
が目標デナケレバナラナイ。

今次事変ノ終局ノ目標ハ以上ノ矣ニアルガ、今
回ノ北支事変ハ結局黄河沿線迄皇軍が進出シテ完
六一

全ニ黃河以北ヲ固メ其他ニ自治的ナ政權ヲ樹立セ
シメテ終ルデアラウ。ソウナレバ露西亞トノ利害
關係が相反スルカラ、絶エズ露西亞ノ出方ヲ注視
シテ進マズバナラヌが其ノ他ノ諸國トハ余リ利害
關係が伴ハナイカラ心配スルコトハナイト思フ。
ダガ斯ウシタコトハ如何ナル動機デ大事ヲ惹起シ
世界戦争ノ動因トナラナイトモ限ラナイノデ茲ニ
國內整備ノ必要が生ズル。

(二) 愛國社幹部

事変ニ對スル見透シハ東京、阪神方面ノ有力意見ヲ綜合シテ見ルト、事変ハ余リ永引カズ割合ニ早ク解決スルモノト見テキル。……經濟的ニ見テ支那ハ日本ヨリモ早ク参ッテ了ッシ、又蔣政權ノ背景ヨナシテ平ル浙江財閥モ之ヲ支持セル英國ノ資本モ共ニ事変ノ不拡大ヲ希望シテ居ルコトハ明カデ蔣トシテモ此ノ意見丈ハ無視スルコトハ出来ヌ……北支事変ハ結局ハ吾軍ノ勝利デ、蔣介石ハ一時失脚ノ他ナク、平定後ノ北支ヲ如何ニスルコト言フ問題デアルガ

六二

之ヲ滿洲國同様ノ組織ニスルコトハ日本トシテ
ハ執ルベキ策デナク、同地方ハ非常ニ農産物ノ
豊富ナ地方デ今迄相當暴兵ノ爲荒サレテ居ルカ
ラ誰カ適當ナ者ヲシテ政權ヲ執ラシメ一帯ヲ非
武装地帯トシ日本ノ駐兵權丈ヲ認メサスレバ住
民ハ欣舞シ大成功デアルト思フ。余リ支那ニ
對シテ日本ガ差出ルコトハ徒ラニ反日氣分ヲ昂
メル計リデ得ルコトハ何物モ無イ。北支事變ニ
對スル日本主義運動ヲヤツテ居ル者ノ態度ヲ見
ルニ北支事變ヲ契機トシテ先ヅ國內改造ヲ断行

スベシト言フ様ナコトヲ言ツテ居ル者ガ多イガ此
際抽象的ナ國內改造ト言フ様ナコトヲ稱ヘテ居
ルト戦争ヲ機會ニ急激ナ变革ヲヤラレテハ困ルト
言フノデ折角國論ガ統一シ國民一致シテ當ツテ居
ル際中ニハ戦争其モノヲ回避スル者ニ出テ来ルト
思ハレル。ソレデ吾々ハ左様ナ抽象的ナ國內改造
トカ庶政一新ト言フコトハ此際避ケテ國策ノ單純
化即チ具体的ナコトデ良イト思フコトヲドレドシ
ヤレバ結果ハ國內改造ニナル訳ダカラ之デ進ンデ
行カウト言フコトニナツテ居ル、對支俱樂部ノ會

合ノ席上、某氏が北支問題ニ関シ話合ツタ時國內
改造ヲ即時断行スベシト言ツテ居タガ列席者一同
ハ一笑ニ附シテ取合ハナカッタ。

(三)

自稱滿蒙北支方面秘密工作員

(1)

今度ノ事変ハ相手ガ支那デアルト思ツテハ

大イニ誤ツテ居ル。即チ共產革命ガ成功スル

カ、皇道革命ガ成就スルカノ分歧矣デアル。

(2)

一体日本ノ外交官ノオ馬鹿サンガ支那ヲ甘

カシタ爲ニ斯様ニナツタノデアル。最早局地

的解決ダノ、領土的野心ガ無イノダノト申ス
必要ハ更ニ無イノデアアル。北支ハドン／＼占
領シテ更ニ黄河以北ハ獨立セシメ滿洲國ニ併
合セシムレバ良イノデアアル。蔣介石モ今度ハ
國交断絶ヲシテ宣戰布告ヲ爲シ、英、米、ソ
ニ泣付イテ行クデアラウ。然ラバ完全ニ第二
ノ世界戦争ノ導火線トモ謂ヘヨウカ。英、米
トテモ却々容易ニ手ヲ出スコトハ致スマイ。
(3) 戦ハバ必ず勝タナケレバナラヌガ此処デ大
イニ考ヘナケレバナラヌ事ハ戦フ兵士ノ心情
奇

デアアル。今迄忠勇ナル兵士ハ大君ノ爲メ塔ム
ス屍デ死ンゼキタガ、之カラノ戦争ハ此レ父
ケデハ駄目デアアル。戦ニ負ケレバ如何ナル結
果ガ生レ父母妻子兄弟ハ如何ニナルカト言フ
莫ク良ク承知納得セシメネバナラヌ。

自分ハ永ラク滿蒙北支ノ原野ヲ命懸ケテ馳
セ廻ツテ良ク事情ガ判ツテキルガ武カ夫デハ
到底駄目デアアル。背後ニ廻リ内部的ニ手ヲ入
レテ敵國內ノ對立抗爭或ハ獨立ヲ圖ル等内部
的ニ崩壊セシムルコトガ肝要デアアル。然レコ

ノ工作ニハ多少ノ金ハ要ルガ彼支那人ハ金ヲ
見レバ容易ニ我が意ノ如クナルノデアアル。
今次事変ノ影響ヲ受ケテ滿洲國內ニモ同人
種ナル關係上多少ノ騒動ハ豫期シテ居ラネバ
ナラヌト思フ。

(4)

自分ハ今後ヤルベキ仕事ガ唯一ツ残サレテ
居ル。ソレハ金持カラ金ヲ出サセル事デアアル。
日本ノ金持ノ中ニハ外國ノ銀行ニ預金シテ戰
争デモ買ケタラ外國ニ籍ヲ移ス位ノ奴ハ幾ヲ
デモ居ルノデアアル。彼等非國民タル金持ヲ覺

六五

醒マシメルコトが吾々ノ任務デアル。現在ノ
献金状態ヲ見テモ殆ンド細民カラ出タ疾ノ虫
ル様ヲ金バカリデアル。

(四) 左翼分子

左翼分子中ニモ今次事変ヲ契機トシテ却テ愛國
意識ヲ喚起シ之カ支持ノ態度ヲ示シ居ル者アルコ
トハ第一報既述ノ如クナルガ(三)五名中替成者一
四六名)更ニ其後三三名ニ付意嚮ヲ内偵スルニ此
際徹底的ニ膺懲スベシトナス者一〇名、事茲ニ至

リテハ軍事行動モ亦已ム無シトナス者八名ニシテ
政府ノ方針並出先軍部ノ行動ヲ支持スル者漸次増
加ノ傾向ニアリ、其ノ主ナルモノ左ノ如シ

(1) 長崎縣 共乙 某

召集サレテ行ク軍人ヲ見ルトキ、感謝ニ堪ヘナ
イ。自分モ應召出来ルナラ喜ンデ出征シ存分ニ
御奉公シタイト思フ。ソウスレバ過去ノ罪モ許
サレ社會人カラモ見直シテ貰ヘルト思フガソレ
モ出来ナイ。此ノ上ハ銃後ニ在ツテ武運長久ヲ
祈ル外ハナイ。

六六

(四) 長崎縣 共乙 某

自分モ最近ニ至リ漸ク國民的自覺ヲ生ジ、曾
テ反戰反帝運動ヲシタコトヲ恥ゲテ申ル。軍籍
ニハナイガ幸ヒ新聞ト言フ唯一ノ言論機關ヲ利
用出来ル關係ニ在ルヲ以テ之ヲ通ジテ輿論ノ統
一ニ助力、以テ報國ノ誠ヲ致シタイ、自分ハ支
那ノ不信行為ヲ知ルガ故ニ開戰ノ遲キヲ寧口遺
憾ニ思フ。

(ハ) 富山縣 共乙 某

東亞ノ和平ヲ確保スベク北支ニ於テ奮闘スル

將兵ニ對シテハ滿腔ノ感謝ヲ表スルモノデアリ。
國內ニ於テハ各階級ヲ超越シテ一致協力國難打
開ニ當ルベキデアリ、小作爭議等ハ自發的ニ之
ヲ清算シテ外敵ニ當ラネバナラヌ。

(五) 宗教団体

東京市所在きよめ教會ヨリ支部へ發セル皇軍支
援ノ指令ノ一節

「或ル方面デハ從來ノ國家的民族的意識ニ乏シイ
而モ非戰主義的基督教徒ニ對シ内偵シマ、警戒シ
六七

始メマシタ。我等ハ斯ル者等ト同一視サレザル様
言語動作等ニ對シテ吳々モ御注意下サル様云々
レ

B. 反對的

(一) 左翼分子、

今次事変ニ対スル左翼分子ノ意嚮ハ第一報記述ノ如ク(三〇五名中反對者一五九名)共產主義的立場ニ於テ反對スルモノ多カリシガ其ノ後更ニ三三名ニ付内偵スルニ戦争絶対反對ヲ主張スルモノハ僅カ六名ニシテ其ノ反對者ノ比率ハ漸次減少ノ傾向ニアルモ、尚「急速解決ヲナスベシ」(三名)或ハ「労征兵士遺家族ノ慰向ヲ徹底的ニ実施セザ

六八

ルベカラズレ（六名）等ヲ極端ニ強調シテ暗ニ反
対的意嚮ヲ洩スモノアリ、
因ニ及対意嚮ノ主ナルモノ左ノ如シ。

（一）長野縣 共乙 某

戦争ハ人類道德ノ上ニ決シテ觀迎スベキモノデ
ハナイ、尙征軍人初メ遺家族ニ於テモ忍ビナイ儀
牲ノアルコトヲ見聞シテ居ル、自分ハ未教育補充
兵ダガ引張り尙サレレバ尙征ニナイ訳ニハ行カナ
イガ戦地デ銃砲ノ引金ニ手が掛ツタ時、果シテ目
標ヲ狙フコトが尙來ルカド、カ今一寸考ヘラレナ

イ事外、何レニシロ速カナル和平解決ヲ希望シテ
居ル

(2) 長野縣 某

北支ヲ完全ニ日本ノ勢力範圍内ニ入レテ置カサ
ケレバ滿洲國ガ危ブナイト云フガ實際ハ支那ニ對
スル侵畧行動ヲシテ居ルノデアルガ、而シ今ノ日本
トシテハ理窟ヲ云ツテ居レバ自滅シテ了ツカラ侵
畧モスルコトニナルノデアル、軍部ノマル事外カ
ラソ朕モ打ツ心算リダト思フ、戦争ニヨツテ一番
懐ノ大ルノハ資本家共デ氣ノ毒ナノハ一般農民ヤ

勤勞大衆デアール、之等ハ其ノ子弟ヲ犠牲ニシテ國
家ノ爲ニ盡シテキルノニ資本家共ハ少シ位ノ献金
デ一般大衆ヲ誤魔化サントシテキル本當ノ舉國一
致ナレバ資本家ノ暴利ヲ抑圧シテ一般大衆ノ爲ニ
銳後ノ護リノ爲ニ出サセル極政府デモ強カナル意
思ヲ持ツテ欲シイト思フ。

③ 富山縣 思 容 某

戦争が開始サレルモノトハ思ハナイ、今度ノ動員
ヲ見ルニ殆ド未教育補充デアアルガ故ニ豊富ナル軍
部予算使途ノ一方法トシテ決行セラレタル極ニ思

ハシル。

(4) 山梨縣

共乙 某

將來下士官等、所謂職業軍人ハ資本主義的帝國主義的ナ意識ノ下ニ働イテ居ルダラウガ兵卒ハ何モ知ラズ唯御國ノ爲ト勇躍シテヤ一線ニツイテイルガ全ク可哀想ナモノデアル、滿洲事變ノ當時日本帝國主義ノ代表ハ無産大衆ノ子弟ヲ多數殺シナガラ及戰気分ノ醸成ヲ恐レテ事實ヲ発表セズ損害マ死傷者等ハ僅カニ発表シテ無智ナル無産大衆ヲ偽瞞シタ、今度ノ事變デモ相当多數ノ死傷者_{七〇}ガア

ルト思ハレルガ「戰場カヲ我等ノ子弟ヲ返セシノ
國民ノ叫ビヲ恐レテ僅カノ死傷者ヲ発表シテ居ル
ニ過フナイ我々ハ無産大衆ノ生活ヲ脅ス資本主義
的帝國主義戦争ニハ反対セザルヲ得ナイガ偽瞞サ
レテ國家ノ爲ト云フンテ居ル大衆ノ波ニ押サレテ
反対運動ガ出来ナイマデノコトデアル。

(二) 朝鮮人

(1) 本籍、

全北金泉郡牙浦面鳳山里七七〇

住所、

姫路市三段堀九

土工、山田政吉コト

金宇権

三三三六年

右者七月二十日兵庫縣愛親會ニ於テ出征軍人慰向
金募集協議ノ總會席上ニ於テ

日本が負ケルデアラウ、負ケタラ良イノデアアル
去々、及ビ

從軍スルコトニナレバ出征ハスル然レ自分ハ敵
セ

ヨリモ後ニ向ツテ發砲スル、慰向金ナド出スル
要ハナイ、云々

并ノ不穩言動有リ會長李慶五ハ激昂シテ本名ヲ退
席センメタル事實アリシヲ以テ目下檢束取調中、

(2) 京都市下京区中新躰松原西入北側

五大法科學生

林 七 星

今回ノ北支事變ハ日本が戦争準備ノ為東洋ヲ完全
ナル日本ノ支配下ニ置クベキ為ノ事變デアアルカラ
日ソ戦争ニナラナイ限り拡大スルコトハ無イト思
フ。帝國主義戦争ハ一部少數ノ資本家ヲ擁護スル

タメノ戦争デ資本主義ニハ打倒スレバ眞ノ人類平
和ガ出来ルモノデアル。

尚京都府ガ内鮮融和ノ名、下ニ鮮人ヲ内地人ニ同
化セシムル意図ヲ以テ朝鮮文化ヲ壊滅セシメント
シテキルガ之ハ暴政モ甚ダンク、民族性ヲ毀クセ
ントスル政策ハ民族ノ征服デアリ、人類平和ノ予
盾デアアル。日本ノ植民地政策ハ誤ッテ居ルト思フ
去々。

(8)

本籍、慶南河東郡米良面斗溪里

住所、川崎市大島ニ三一五 日ノ出アパー
ト

七二

古物商

朴東菴

本名ハ全拜系人物ナルガ、國防献金募集中ノ鮮人
ニ対シ、國防^ト献金募集ヲ誰ガ發起シタノダ、何モ
日本ト支那ガ戦争スルカラト云ツテ吾々労働者カ
ラ金ヲ出ス必要ハナイデハナイカ。政府ハ戦争準
備ノ為メ税金モ上げテ吾々労働者カラ金ヲ採取シ
テ居ルノデアル、此ノ暑イノニ働イタ金ヲ出ス必
要ハナイ、俺ハ一銭モ出サナイ、吾々労働者ノタ
メニ世界中テ戦フテ莫シルノハ露西臣トスペイン
人民戦線丈ダ。労働者が日支事件ニ金ヲ出スコト

ハ自殺スルト同シダ、火藥ヲ背負ッテ火ノ中ニ入
ル様ナモノテ労働者ノ利益ニハ一キモナラナイカ
ラ止セシ云々ト国防献金募集ヲ阻止セルヲ以テ八
月七日之ヲ検束シ目下取調中、

(4) 茨城、水戸市聖公會牧師、某、

元來戦争程非文明的ナ現代ニ不自然ナモノハナイ、
國民ノ膏血ニヨル學キ税金其他巨額ノ金ガ空費サ
レ學キ生靈ヲ奪ハレ悲慘極マルモノデアル、宗教
家ノ立場ヨリスレバ戦争ハ絶対ニ避クベキデアル
上海事變當時在米シテ日本ノ野心的行動ヲ非難シ

夕新内ヲ見テ夫レヲ肯定セザルヲ得ナカク夕今回
モ國論統一ヲ促サレ日本軍ノ行動モ止ムヲ得ナイ
矣モアラウガ今一步進ンデ妥協方法ハマルト思フ。

(5) 長野 松本パプテスト教會牧師 某

(警察署視察員ニ語ル)

軍備ヲ拡張スレバ戦争が無クナルト言フコトハ無
イ、基督教ハ軍備ヲナクンテ戦争ヲレナイコトヲ
説クモノデアル、軍拡ニ狂奔スル現代ハキリスト
教カラ言ヘバ方ニ暗黒時代デアル今度ノ事件ハ日
本ハ好機トシテヤルデアラウガ戦争ハ双方共損害

ヲ受ケルカラ早ク止メタ方が良イ。

流言

関係府県

富山

徳島縣

職業

精米業

某議

某

事

項

處置

八月二日今回ノ勤負ハ未教育者ガ多イ之
ハ戦地ニ於テ中一線ニ立タセ彈丸除ケノ
代リニスルモノデアルカラ應召スル者コ
ソ迷惑至極デアル。

嚴重戒
飭

七月二四日、事變發生前百靈廟ニ於テ日
支兩軍衝突シタガ不幸我軍ノ大敗トナリ
多数ノ武器ヲ鹵獲サレタ爲隊長以下ノ責
任者ハ免官トナツタ事實ハアル、其後支那
ハ日本ヲ侮ル行爲ガ頻發シ遂ニ此支事變
ニ進展シタモノデアルカ林内閣ノ桂冠モ
ガル様

駐在警

察官ニ

洩ラレタ

ル言動

流布セ

ガル様

七五

兵 庫	神奈川	
	新聞配達 某	
<p>八月三日、航空母艦ノ加賀ハ日本ノマリア ヲ附シタ支那ノ飛行機ニ爆撃サレ相当ノ 被害ヲ受ケタガ撃沈ハサレナカッタ。</p>	<p>ハ日本ハ負ケデスヨエ々 ンナコトデ戦争ニ勝テル道理ハナイコレ パケ<< ヤラレテキル、ナツテヤシナイコ ゲヨウ<< トスルモノカカラ味方ノ者ニ ハ日本人ハ皆戦争スルコトヲ嫌ハツテ逃 行爲ニ</p>	<p>議會ニ於ケル本問題ノ難詰ヲ回避スル爲 トト解サレテイルラシイ。</p>
中 拳取調 目下檢	戒飭 付嚴重	醉餘ノ 注意ス